

新医学系指针对応「情報公開文書」改訂フォーム

## 研究協力のお願ひ

昭和大学江東豊洲病院では、下記の臨床研究を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

### 3次元肺モデルを用いた区域気管支の分岐角度の計測

#### 1. 研究の対象

2014年3月24日～2018年4月18日までに、当院にて胸部CT画像を撮影した肺病変を伴わない症例男女70症例づつを対象とする。症例の除外項目として、カルテ情報から明らかな呼吸器疾患、運動器に障害のある整形外科疾患および、中枢神経障害である脳血管疾患や神経難病とする。

#### 2. 研究目的・方法

痰などの気道分泌物が貯留する症例に一定の体位をとり、重力を利用して分泌物の貯留した肺区域から中枢気道へ分泌物を誘導・排出する体位ドレナージ法は呼吸リハビリテーションにおいて非常に重要である。臨床場面において自力で排痰が困難で気道分泌物の貯留・喀出が多い症例や人工呼吸器装着中の症例に対して特に有効であり、体位ドレナージ法は慢性閉塞性肺疾患（COPD）理学療法診療ガイドラインでは推奨グレードBエビデンスレベル1とされている。体位ドレナージ法は、解剖体を用いた研究から、区域気管支の分岐角度を算出し、これらの角度を基準に考案された。解剖体は老衰や病的な理由により、お亡くなりになった方のご献体であり、必ずしも健常者と同じ肺であるとは言い難いため、健常な生体肺の区域気管支の分岐角度を計測する事は意味がある。また肺気管支はフラクタル構造であり、分岐部が幾重にもあるため、最初の分岐部と最後の分岐部の角度を計測するとかかなりの広角になっていることが予想されるが、現状の体位ドレナージの体位だけで対応しきれているかは疑問である。そこで当院にて診療の経過の中で撮影されたCT画像から、3次元画像解析システムボリュームアナライザ-SYNAPSE VINCENTを用いて、3次元肺モデルを作成し、区域気管支の分岐角度を計測し、体位ドレナージによる肺区域ごとの最適体位の検証を行う基礎データとして、本研究を行う。

#### 研究期間

2018年4月18日、病院長の研究実施許可を得てから2022年3月31日まで

#### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報:対象症例の性別、年齢、身長、体重、現病歴、既往歴、喫煙歴、Alb値、クレアチニン値、白血球数、リンパ球数およびCT画像データより作成された3次元肺モデルおよび筋骨格に関するデータを調査項目とする。

#### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学江東豊洲病院リハビリテーション室      職名：理学療法士      氏名：井口 暁洋

住所：135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

電話番号：03-6204-6000（代表）

研究責任者：

所属：昭和大学江東豊洲病院リハビリテーション室      研究責任者：井口 暁洋